令和 3 年度版 中学校英語教科書 SUNSHINE ENGLISH COURSE

検討の観点と内容の特色

項目	検討の観点	特色
全体的な特長	学習指導要領の趣旨を踏まえ，教科の目標を達成できる内容となっているか。	質・量ともに言語活動の充実が図られている。全学年を通して 1 セクションの中に「聞く」「話す」「読む」「書く」活動が配置されており，**4 技能 5 領域の総合的な指導**を通してコミュニケーション能力の基礎を養うことができるよう工夫・配慮されている。 また，活動の難易度も生徒が無理なくできるレベルのもので**基礎学力の向上**を図る工夫がなされている。**小学校外国語科との円滑な接続**を実現するためには，入門期に計 13 ページを配当し，小学校英語科の内容について「聞く」「話す」活動から入り，それから文字に関する内容を扱っており，丁寧かつスムーズに中学校英語の学習に入れるよう配慮されている。
	①知識及び技能，思考力・判断力・表現力等，学びに向かう力・人間性等の育成が図れるように配慮されているか。	①通常課（PROGRAM）は，「**知識・技能**」を習得する **Scenes**，「**思考力・判断力・表現力**」をきたえる **Think**，**Retell**，**Interact** という流れで構成されており，それらの学習を通じて「**学びに向かう力，人間性**」が涵養できるように配慮されている。
	②主体的・対話的で深い学びの育成が図れるように配慮されているか。	②通常課，Our Project ともに**冒頭のページに Goal** が示されており，見通しをもった学習ができる。通常課には**達成度のチェック欄**が設けられており，Our Project では最後に自分や友だちの発表を振り返り，次の発表に生かせるように工夫されている。 また，通常課の Retell では友だちの発表から表現の仕方を学ぶ，Our Project では友だちの意見を取り入れながら原稿を練り上げるなど，**協働学習**に重点が置かれた内容となっている。
	③カリキュラム・マネジメントに配慮した構成になっているか。	③育成すべき資質・能力について，**教科横断的な指導がしやすい題材**が多く配置されている。旅行先のフィンランドについて紹介した A Trip to Finland（1 年）やチョコレートの歴史について述べた The Story of Chocolate（3 年），プラスチックごみ問題を扱った The Great Pacific Garbage Patch（3 年）などの社会科，身近な科学を扱った High-Tech Nature（2 年）の技術分野，人種差別や平和問題について読ませる Live Life in True Harmony（2 年）や Visas of Hope（2 年）の道徳など，その内容は多岐にわたっている。
	④4 技能 5 領域の総合的な育成を図りつつコミュニケーションを図る資質・能力を育成できる内容・構成となっているか。	④各学年に 3 箇所ずつ配置されている Our Project では，それまでの**既習表現を使ってパフォーマンス活動**に取り組む構成になっている。そのパフォーマンス活動の内容は，発表活動や Show & Tell，PR 活動や記者会見，ポスター発表など多岐にわたり，4 技能 5 領域を駆使した活動が配置されている。
	⑤小学校との学びの連続性を意識した構成となっているか。	⑤各課に 2〜3 箇所設けられている **Try** は毎時間の帯活動で行う Small Talk のコーナーとなっており，その内容は既習の語彙や表現を使ってペアで行う活動に設定されているので，**小学校での既習内容を生かした活動**を無理なく頻繁に行うことが可能である。 Scenes の 2 コママンガによる新出表現導入は，小学校で慣れ親しんだ「**場面シラバス**で新出表現を学習する」というプロセスと同じであり，生徒が違和感なく中学校英語に入っていける構成である。 また，1 年の前半では小学校英語科で使用していた手書きに近い欧文フォント，後半は一般的な活字体に近いフォントが使用され，本課に入る前の Get Ready で書く箇所には 4:5:4 の割合の 4 線が配されている。これらの点においても，小学校からのスムーズな接続が果たせる教科書であると言える。小学校英語では，部分的に触れられているのみだった「**音と文字の関係**」についても 1 年の Program 1 で 2 ページを割いてあるので丁寧に扱うことが可能である。 さらに，これまで 2 年で正式に扱っていた不定詞も小学校で扱った用法については，1 年で先行して表現として扱うなど，**学びの連続性への細やかな配慮**がなされている。

全体的な特長（続き）	⑥英語の授業は英語で行えるように配慮がなされているか。	⑥課のはじめにある Scenes では 2 コママンガを通して新出表現を学ぶことで，場面の把握にあまり日本語を必要としないメリットがある。 また，Scenes 横の Speak & Write で英語を話すことはもちろんのこと，本文（Think）の各セクションに配置されている英問英答形式の Q&A，本文内容を再話する Retell，必然性のある場面やトピックのもとで自分の考えを言ったりペアで対話したりする Interact 等，**生徒が英語を使って課題を解決**する教材を数多く設定している。
知識・技能	言語材料と言語活動とを効果的に関連付け，実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう工夫されているか。	言語材料は基礎的・基本的事項が精選され，易から難へ配列されており，4 技能 5 領域の活動を通じて身に付けられるように工夫されている。また，既習の表現や語彙を活用して行うパフォーマンス活動 Our Project では，場面と内容は 1 年から段階的に発展し，最終的には社会的な場面で自分のことばとして英語を使うことを想定した活動となっている。
	①音声の扱いは適切になされているか。	①全学年とも各セクションの欄外で，語の音素の識別，対比，リズム，音調，区切り，つづり字と発音の関係などを扱っている。全て該当ページまでに出現した語彙や文に関連するものを扱い，音声指導において生徒がつまずきやすい項目を取り上げている。また，全学年を通してコラム「**発音クリニック**」が随所に設けられており，イントネーション，強勢，区切りなどについて丁寧かつ系統的に示されている。さらに，全学年を通して巻末資料に「**英語のつづり字と発音**」（1 年 p.139，2 年 p.133，3 年 pp.123-124）が設けられており，生徒自らが本文で学んだ語を音声と文字の関係に着目してまとめ，その関係に気づくことができるよう特段の配慮がなされている。
	②中学校で扱うべき 1,600～1,800 語を無理なく学べるよう工夫されているか。	②新出語（**New Words**）は，生徒が自分で表現できることを目指す「**発信語彙**」を太字で，意味が理解できればよい「**受容語彙**」を細字で区別して示されている。さらに，受容語彙は一般語と固有名詞も表記の仕方が区別されているので，生徒は効率的な学習が可能である。 また，新出語（「発信語彙」と「受容語彙」のうちの一般語）には**チェックボックス**が設けられており，意味を覚えたら上半分を，発音できるようになったら下半分をぬりつぶすというように，自己学習を促す工夫もされている。 さらに，数，曜日，序数，形容詞，前置詞などのまとめて覚えたい重要語は **Word Web** でまとめて扱われており，**語彙の学習を効率よく**進められるように配慮されている。
	③文・文構造・文法事項の扱いは適切か。	③本文で取り上げてある文は単文から重文・複文へ，具体的な内容の文から抽象的な内容の文へと配列されており，適切で教えやすい構成である。基本文として提示してある文構造・文法事項は，1 年 24 項目，2 年 23 項目，3 年 20 項目となっており，基本文は Scenes（マンガ形式の対話文）で導入され，Think（本文）で異なる文脈で理解，Interact で与えられた場面での表現活動と意味のある文脈で繰り返し触れながら定着を図れる。
	④今回の学習指導要領で新たに追加された事項について，無理なく学習が進められるように配慮されているか。	④感嘆文については基本的なものが 1～3 年生までの本文の中で扱われている。また，現在完了進行形や仮定法，その他の追加項目についても，Scenes の自然な場面設定により無理なく導入ができるように工夫されている。
思考力・判断力・表現力等	情報を整理しながら考えなどを形成し，英語を表現したり，伝え合ったりするための工夫がなされているか。	各課の **Think** では推量発問や生徒同士で話し合う発問が示されており，情報を整理して話すことができる。それらを下敷きとして，課末の **Retell** では Think の内容を整理して話すことが求められている。新出表現を使って言語活動を行う **Interact** では，必然性のある場面やトピック設定のもと「理由も入れて自分の考えを言おう」などのように思考力，判断力を使って論理的に表現するように促している。

言語活動	①「聞くこと」の練習・活動は十分に取り扱われているか。	①Scenes の理解活動として，右ページに **Listen** という活動が設けられている。 また，各課の冒頭のページに，その課の話題にまつわるキーワードや文化情報などについての**リスニング音声**が用意されており，音声面から学習内容の導入が行えるよう工夫されているとともに，学習の見通しを立てることができる。 さらにリスニングを含む **Power-Up** では，聞き取る内容を焦点化して同じ音声を複数回聞かせる活動を意図的に設け，概要の把握から詳細な情報まで段階を踏みながら正確に聞き取ることができるように配慮されており，内容の把握だけでなく書き取り形式の問いも用意されている。内容も「店内放送」「インタビュー」（1 年）や「天気予報」「空港アナウンス」（2 年）「非常時のアナウンス」（3 年）など，自然で聞く必然性のある場面での活動が設定されている。
	②「話すこと（発表）」の練習・活動は十分に取り扱われているか。	②Scenes の右ページに Listen と併せて **Speak & Write** という活動も設けられており，話した（Speak）内容を書く（Write）ことで，新出表現を使いながら理解できるように工夫されている。 さらに，課末の **Retell** では与えられたキーワードなどを参考に，課本文の内容を再現するという活動を通して，自分の英語で表現する即興力を養う工夫がなされている。 **Our Project** では単に原稿を読み上げるだけの発表でなく，自分の手元にあるメモや資料をもとに即興で発表する活動も取り入れられている。
	③「話すこと（やり取り）」の練習・活動は十分に取り扱われているか。	③1 課あたり 2〜3 箇所ある **Try** では，これまでの既習表現や語彙を使って Small Talk を毎時間行えるので，確かな即興力の養成につながる。各課末の **Interact** でも，その課で学習した新出表現を使って友だちとやり取りできる場面が多く設定されている。理由も入れて自分の意見を言うことまで促す指示があるため，意味のないやり取りにならず，場面・状況に応じた即興力を育成できる構成である。 **Our Project** ではチャットを通して内容を深めたり，発表後に**即興での Q&A** を行ったりすることで即興力を養う工夫がされている。
	④「読むこと」の練習・活動は十分に取り扱われているか。	④**本文（Think）**の各セクションに配置されている Q&A には，「事実発問」のほか「推量発問」も設けられており，確かな読解力が育成できる。 さらに，本文わきには音読回数に応じてぬりつぶす「**音読マーク**」も設けられており，自学自習を促すとともに，学習の記録にも役立てられるよう工夫されている。 また，**Reading の課**が 2 年には 3 箇所，3 年には 2 箇所配置されており，読んだ内容について自分の感想や意見を述べる活動へと発展させている。 さらに，3 年の巻末付録には，多読用・速読用教材として **Extensive Reading** が 2 箇所設けられており，長文化する高校入試に分量・内容ともに十分対応できるものとなっている。
	⑤「書くこと」の練習・活動は十分に取り扱われているか。	⑤Scenes の理解活動として，右ページに Listen と併せて **Speak & Write** という活動が設けられている。話した（Speak）内容を書く（Write）ことで，新出表現を正確に理解・表出させることができる。 **Our Project** では，モデル文の構成の分析，既習表現の確認，構想を練るためにマッピングを使った原稿作成過程を取り入れ，小さなステップを積み重ねながら文と文のつながりに注意して文章が書けるように配慮されている。**Power-Up Writing** でもモデルの理解やマッピングを取り入れているほか，メールや日記など英語を「書く」必然性のある，自然な場面を設定している。 課末の **Interact** や，各学年に配された **Steps** でも「話した／聞いた内容を書く」という活動が設定されており，「書く」活動を通して，英語の正確性を上げることができるよう配慮されている。
	言語の使用場面・言語の働きは適切に扱われているか。	学習指導要領に例示された「道案内」「電話」「買い物」など特有の表現が使用される場面や言語の働きの例が学年をまたいでくり返し配置され，実際的な英語の運用ができるようになっており，多様な言語活動を通してスパイラルな学習の機会が設けられている。また，この言語の使用場面を扱うコーナーが **Our Project**，**Power-Up**，**本文（Think）**などと多岐にわたっていることにより，読解やパフォーマンス活動など**さまざまな角度から学ぶ**ことができる。

題材	SDGs（持続可能な開発目標）に対応した題材が配されているか。	17 項目の目標のうち多くの項目に当てはまる題材が，**3 学年を通してバランスよく**取り上げられている。以下はその一例である。 1 貧困をなくそう：The Story of Chocolate（3 年） 4 質の高い教育をみんなに：The Way to School（1 年） 5 ジェンダー平等を実現しよう：Malala's Voice for the Future（3 年） 8 働きがいも経済成長も：Work Experience（2 年） 9 産業と技術革新の基盤をつくろう：Is AI a Friend or an Enemy?（3 年） 10 人や国の不平等をなくそう：Sign Languages, Not Just Gestures!（3 年） 11 住み続けられるまちづくりを：Junior Safety Patrol（1 年） 14 海の豊かさを守ろう：The Great Pacific Garbage Patch（3 年） 15 緑の豊かさも守ろう：Leave Only Footprints（2 年） 16 平和と公平をすべての人に：Live Life in True Harmony（2 年）
	「自国の文化」を扱った題材はあるか。	各学年とも我が国の文化に触れた題材を取り上げているが，Let's Enjoy Japanese Culture.や The Year-End Events（ともに 1 年）のような**伝統文化**だけでなく，A Gateway to Japan（2 年），*Bentos* Are Interesting!（3 年）のように，**中学生にとっても身近な題材**もバランスよく取り交ぜられている。
	人権への配慮はなされているか。	全体を通して**人権を尊重する態度**に貫かれた題材・学習活動が提示されている。Stevie Wonder の歌とキング牧師，ネルソン・マンデラ南アフリカ元大統領の人生（2 年），第二次大戦中に多くのユダヤ人の命を救った日本人外交官・杉浦千畝（2 年）や，ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイの実話（3 年）は人権および道徳教育の教材として出色である。
組織・配列・分量	基礎・基本の定着が図れる構成となっているか。	各課のはじめにある **Scenes** では，2 コママンガという自然な場面設定の中で新出表現が導入されている。ここで提示されている項目の数は 1 年 24 項目，2 年 23 項目，3 年 20 項目と精選されている。Scenes のあとに **Listen** と **Speak ＆ Write** という比較的易しい活動で知識・技能を養成し，本文である **Think** でその強化を図り，再話活動である **Retell** を経て，必然性のあるトピック設定のもとでその表現を使った対話活動をする **Interact** で目標事項の定着を図ることができる。 また，課末にある「**英語のしくみ**」では，図や色分けによって視覚的に課の新出表現を分かりやすく解説しており，基礎・基本事項の定着が確実に図れる構成となっている。
	分量は指導時数に照らして適切か。	本文ページ，および言語材料の分量は週 4 時間の指導時数に照らして適切であり，年間 140 時間での指導・学習が**余裕をもってできる**ように編集されている（1 年 94 時間，2 年 103 時間，3 年 97 時間）。
使用上の便宜	自学自習を促すための工夫はされているか。	ページ上部にある **QR コード**を活用することにより，スマートフォンやタブレット端末などによる音声再生が可能なので，自学自習の大きな助けとなる。 また，新出語欄に**チェックボックス**，本文（Think）下に**音読マーク**を付して生徒が自分の学習を記録し，振り返ることができるよう自学自習のための工夫がなされている。 対話で示されている **Scenes**（基本文）は，課末の「**英語のしくみ**」（文法のまとめ）と**相互参照**できるようにされているなど，生徒が自分で学習内容を振り返ったり整理・確認したりできるように工夫されている。
	さし絵・写真の質・量は適切か。	さし絵，写真は鮮明で数が多く，学習を支援する材料として理解を助け，深めるのに大きく貢献している。課の冒頭ページには大きな写真やさし絵で課の内容についての興味付けを行うとともに**スキーマ（既有知識）を活性化**させることができる。 新出表現を導入する Scenes でこれまではなかった「**マンガを使っての導入**」にすることにより，使用されている表現の場面・状況・目的が適切に表現されており，非常に明確で伝わりやすい。

使用上の便宜（続き）	巻末資料は有用なものが用意されているか。	各学年とも本文学習と有機的に関連した**豊富な巻末資料**が用意され，言語活動を活発にするための配慮がなされている。特に各学年巻末資料に設けられた「**英語のつづり字と発音**」（1 年 p.139，2 年 p.133，3 年 pp.123-124）は，教科書で学んだ単語について，生徒が自分でつづり字と発音の関係をまとめ，単語を補充できるように工夫されている。また，各学年とも帯学習として取り組む「Try のまとめ」が折り込み付録になって入っており，この折り込み部分を広げると表現例とトピック一覧を参照することができ，能動的・主体的に活動に取り組むことができる。 さらに，4 技能 5 領域別の「**英語で「できるようになったこと」リスト**」（1 年・2 年 pp.156-159，3 年 pp.148-151）で自分の習熟度を記録することで自分の弱点が確認できると同時に，どのコーナーでどんなことができるようになるのかが見渡せるようになっている。 各学年についている「**アクションカード**」は基本的な語彙・表現の学習の定着に非常に有効である。
表記と表現	文章や記号等の表現についてどのように配慮されているか。	現代の標準的で平易な英語を用い，運用度の高い基本的な表現や語彙・連語が精選され，易から難へとなだらかに配されている。 **発音記号**については，巻末資料「**単語と熟語**」にまとめて示すことでより見やすいレイアウトになっているとともに学習負担の軽減に有用である。 記号や文字の種類については，適切な箇所に解説や注が付されており，学習の利便を図る工夫がなされている。
	活字や書体は学習段階に応じて配慮されているか。	**活字は太めで大きく，行間も十分に取られ，視認性に優れている。** 小学校で扱われている**手書きに近い欧文書体**を 1 年 Program 3 まで，Program 4 以降は**太めで見やすい活字書体**を中心に用いており，学習者への細やかな配慮が見られる。さらに 2・3 年では，文字の大きさや書体を変えたり，ポスターが扱われている課では**手書き風の書体**を用いたりするなど，きめ細かい工夫がなされている。 また，基本文（Scenes）の新出表現のポイントに該当する部分や，新出語（New Words）欄で覚えて使えるようになるべき単語（**発信語彙**）は太字で，意味が理解できればよい単語（**受容語彙**）は細字にし，重要度に応じて表示を変えることで，学習上の便宜が図られている。 また，傍注等の発音表記については，本文部分では，英語で重要な強弱を示すにとどめ，発音記号は巻末資料「**単語と熟語**」に掲載してあることで，New Words 欄がすっきり見やすいレイアウトになっているため，デジタル教科書等の視聴覚教材による音声提示に集中できるようになっている。
	カラーユニバーサルデザインへの配慮はされているか。	本課（PROGRAM）には青色，Our Project シリーズには緑色，Power-Up シリーズには紫色，Steps シリーズには黄緑色をタイトル回りや見出し部分に配し，「英語のしくみ」にはクリーム色の地色をしいている。**全学年で統一**されているため，課やコーナーを検索しやすく，学習上の便宜が図られていると言える。 さらに，**カラーユニバーサルデザイン**の観点から本文では赤と緑を隣接させない，図版類等で色が隣り合う場合は境界に輪郭線を施す，内容理解・問題解答に妨げになるような色使いは避けるなど，**色覚特性への配慮が十分になされている。**
造本，体裁など	印刷・紙面・製本は適切か。	**環境に配慮した**用紙やインキが使用されており，印刷は非常に鮮明かつやさしい色使いで見やすい。また，**AB 判を採用**しており，つめこみ感のない**ゆとりある紙面**となっている。製本はあじろ綴じによるもので堅牢に作られており，長期間の使用に十分耐えられるものとなっている。 また，各学年の巻末にある「アクションカード」は**切り取り用のミシン目**が施され，扱いやすいように配慮されていると言える。